

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

新年明けましておめでとうございます

今年も毎日朝晩の勤行唱題を、呼吸するように、水を飲むように、御飯を食べるように、御便所に行くように、風呂に入るように、ふとんに入って寝るように、当たり前の日常として大切にしていきましょう。

正月は一年の始まりですから、御寺へ参詣し、南無妙法蓮華經の御題目を唱え、信仰者の自覚を持って一年のスタートを切ってください。日蓮正宗の信仰で一番大切な法要は、10月13日の【本仏日蓮大聖人御会式】ですので、必ず参詣できるように努力してください。3月20日の春季彼岸会、8月15日の御盆、9月23日の秋季彼岸会は、自分が遊ぶ日でなく、先祖の成仏を願い追善供養する日です。先祖がいたからこそ今の自分の生命が有るので、この日は亡くなった大切な人に寄り添って御寺に参詣して南無妙法蓮華經の御題目を唱えて下さい。

今の世の中は、ドンドン自分ファーストに流れ、【自分だけ良ければいい】【今だけ良ければいい】【御金だけあればいい】の【だけ】がまかり通っています。自分だけでは生きられないのです。世界中の沢山の色々な人と繋がり、支えて貰っているから生きていられるのであります。日蓮大聖人は、その事を南無妙法蓮華經の御題目の中で教えてくれています。【自分だけの信心】では、必ず間違った信心になります。御寺に参詣して、南無妙法蓮華經の話聞いて下さい。

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

【聞法下種】という言葉が有ります。読んで字の如く、法を聞き下種するという意味です。下種とは種を下す、種を蒔くという事でありませぬ。

私達人間同士のコミュニケーション方法は、どんなに世の中の科学が進んでも言葉と文字と映像しかありません。映像の中味は言葉と文字が合体したものですから、現実には言葉と文字の二つだけになります。【下種】と言うと、信仰者が信仰していない人に南無妙法蓮華經の話をして折伏する事だと考えている人がいますが、【下種】とは、他人の心田

だけでなく、自他共に自分の心田に具わる仏性（南無妙法蓮華經の生命）を何回も何回も深く自覚する事を言うのであります。信仰心の薄い時には、自分が勤行で唱える、法華經の意味も、南無妙法蓮華經の御題目の意味も、まったく分からなかったのであります。しかし、何年も何回も聞いている内に、少しずつ少しずつ分かって来ます。私が 12 歳で出家した時には、法華經に何が書いてあるのか、南無妙法蓮華經が何なのか、日蓮大聖人が、どういう人なのか、何から何まで分かりませんでした。それでも 1 日 1 日何回も何回も教えて貰い、何回も怒られ、殴られしている内に理解出来るようになってくるのであります。だからこそ、妙法の話求めて求めて何回も何回も、以前に同じ事を聞いたでは無く、何回も何回も身体に記憶ではなく染み込ませるように聞法しなければいけないのであります。小僧の時に聞いた話、中学生になって聞いた話、高校生になって聞いた話、大学生になって聞いた話、大人になって聞いた話、同じ話でも、感じる深さ、視野の広さが違うのであります。だからこそ何回も何回も【妙法聞法の縁を大切に求道の信心】をして頂きたいのであります。